

第 1 1 3 5 回教育委員会会議録

1 日 時 令和 4 年 1 月 2 0 日（木） 1 0 時 0 0 分～1 2 時 0 0 分

2 場 所 教育委員会室

3 出席者 豊北教育長 南部委員 原委員 山本委員 森下委員 横井委員
油谷学校教育監 萩原副部長 山崎副部長（高校教育）
高橋教育政策課長 竹澤教職員課長 川崎義務教育課長
中村生涯学習・文化財課長 河瀬保健体育課長

4 議 題

日程第 1 第 3 0 号議案 令和 4 年度福井県公立学校再任用教職員採用内定者の決定について

日程第 2 第 3 1 号議案 令和 3 年度ふくい優秀教職員表彰の被表彰者の決定について

日程第 3 第 3 2 号議案 南部陽一郎記念ふくいサイエンス賞受賞者の決定について

日程第 4 第 3 3 号議案 福井県立美術館運営協議会委員の任命について

5 審議事項

(1) 開会宣告 1 0 時 0 0 分

(2) 会議録署名人の指名 原委員 森下委員

(3) 議事要録

教育長 本日の日程第 1 第 3 0 号議案から日程第 4 第 3 3 号議案、協議報告事項の
3 から 8 については、事務執行上、公開が適当でないことから、非公開とする旨
発議

—————当該議案を非公開と決する—————

◎協議・報告事項

(1) 第 7 0 次福井県学力調査（S A S A 2 0 2 1）結果と活用について

森下委員 2 ページ 3（3）に記載の「調査のポイント」の配布について、調査対象は
小学 5 年生と中学 2 年生だが、正答率が低かった問題について課題があるの
は調査対象の学年だけとは限らない。正答率が低かった分野については、あ
とからフォローすることも大事だが、今教えている先生やこれから教えよう
とする先生が、ここはいつも課題であるとわかっていれば、授業の中で意識
して取り組めるのではないかと思う。

「調査のポイント」の冊子も、調査対象の学年の先生だけでなく、ほかの学年の先生にも共有してもらえるといいのではないかと思います。

教科研究センター長 参考にさせていただく。

原委員 生徒が考え、意見を出し合うような授業をいろんな学校でしていると思うが、そこで出たいろんな意見を学校の中でまとめ、最後に先生がポイントを押さえ、そのポイントをなるほどと思って、しっかり理解した上で覚えるというところまでいっていない学校が多いのかなと思った。従来の、教えこませるような学習から変わってきたところだと思うが、言葉の意味や数式への表し方など、最後の定着させる部分を現場でもう少しできると、問題文にも惑わされないのではないかと感じる。

ある特定の問題の一部分にフォーカスするよりも、考えて覚えるという一つの流れをもう少し深掘りできると、全体的に変わってくるのではないと思う。

教科研究センター長 タブレットが1人1台入っているので、それも活用しながら、学びの過程を児童・生徒が共有して、教員はそれを分析し、記録に基づいて学びの定着に活用できるようなサイクルをしっかりとやっていきたい。

山本委員 1ページ1(2)に識字障がいのある児童・生徒への対応について記載されているが、通常のテストでも何か対応をしているのか。

教科研究センター長 各学校で対応をしている。今回、通常のテストでルビなどを振っている生徒がどのくらいいるかを調査し、その生徒に対してルビ付きの問題を提供した。

教育長 高校入試でもルビ付きの問題を提供しているのか。

学校教育監 そうである。そのような要望が出た場合には、どこまでルビを付けるか協議して対応している。

原委員 今回のテストは、文章を読み込んで最後に質問を解くという問題が多かったと思うが、時間が足りなかったなど、時間と問題の量のバランスについて把握しているか。ボリューム的には問題なかったか。

教科研究センター長 昨年はコロナ禍ということで、通常より時間を5分短縮していたが、今年には元に戻した。時間が足りなかったという現場の声は特に聞いていない。

昨年よりも記述の問題を少し増やしたので、難易度は上がっているかと思う。

森下委員 テストの問題自体が大変洗練されていて、自然体で読むことができた。

1問の問題を解くにしても、前後のいろいろな知識を総動員して解いていくので、単に読書をするだけではなく、読み込む力が大事だと思った。

山本委員 これだけ読んだのに問題は1問だけなのかと思ってしまった。

問題を解くというよりも、読むことに集中する必要があるテストなのだと感じた。

教科研究センター長 以前とは問題の形式が随分変わっている。

例えば、先日の大学入学共通テストでは、教科を問わず読解力を要する問題が出題された。私の専門は物理だが、物理の問題も対話形式になっており、そこを読み取れないと答えられない。

そういう問題に対応できるような児童・生徒を育てることも大切ではないかと考えている。

南部委員

16ページのSASAと質問調査との相関について、粘り強くやり抜くことを意識している人の正答率が高いという結果になっている。長い問題文を読み、設問を1つ解くというような問題を、どれだけ深く真剣にやっていくかが重要であると思う。児童・生徒が、文章を粘り強く、深く読むことを意識して回答するよう、どう指導していくかを考えていただけたらと思った。

教科研究センター長

報告書に事業提案という形で、粘り強く取り組んだり、わからないことを最後までやり抜いたりする力を伸ばすための活動について、メッセージとして出していきたいと思う。

(2) 社会教育関係団体活性化事業の実施状況について

山本委員

支援とは、具体的にどのようなことをしているのか。

生涯学習・文化財課長

研修などを実施する場合に発生する講師への謝礼や旅費、会場使用料などの2分の1を補助するという形で支援している。

森下委員

今年度の新規事業ということだが、これまでは社会教育団体への支援はしていなかったということか。

生涯学習・文化財課長

既存の事業として、社会教育団体の通常の活動や管理経費等への補助制度があり、全体で約500万円の予算を持っている。

森下委員

その事業では、イベント等への補助はしていなかったのか。

生涯学習・文化財課長

役員会の会議費や研修の段取りの費用、広報機関誌等の印刷費や郵送料などを渡していたが、今回SDGsという理念に沿っている場合に支援をしようということで、新たな事業としている。

森下委員

SDGsの視点で補助があると、コロナが落ち着いていけば様々な団体に広まっていくのではないかと思う。

年度初めに各団体から申請してもらい、審査し、支援の対象とする団体を決めていくのか。

生涯学習・文化財課長

基本的に公民館と連携して実施する形で考えている。団体がいろいろ企画

を考え、それを公民館に相談して、社会教育主事とやりとりしながら活動方針を決めて、実施している。

教育長 日程第1、第30号議案を議題

教職員課長 資料に基づき説明

教育長 第30号議案について、原案に対する異議の有無を確認

—————原案どおり可決—————

教育長 日程第2、第31号議案を議題

教職員課長 資料に基づき説明

教育長 第31号議案について、原案に対する異議の有無を確認

—————原案どおり可決—————

教育長 日程第3、第32号議案を議題

副部長(高校教育) 資料に基づき説明

教育長 第32号議案について、原案に対する異議の有無を確認

—————原案どおり可決—————

教育長 日程第4、第33号議案を議題

文化課長 資料に基づき説明

教育長 第33号議案について、原案に対する異議の有無を確認

—————原案どおり可決—————

(3) 高志中学校の入試結果について

(4) 福井県きぼう応援奨学金の奨学生内定について

(5) 令和4年度新学科・コース設置5校の教育課程について

(6) 令和4年度使用準教科書について

(7) 市町教委との教育DX推進会議の開催状況について

教育長 本日の会議の終了を宣言

6 閉会宣言 12時00分